

## 海外渡航、赴任滞在に必要なワクチン

実際の渡航ワクチンのうち方には、いろいろな条件を加味して安全で適切な計画を立てて、要領よく進めて行きます。渡航に際しては英語表記の予防接種記録を持参ください。

### 予防接種

### 対象

<https://www.forth.go.jp/useful/vaccination.html>(2022.10.21)

### 黄熱

感染リスクのある地域に渡航する人  
入国に際して証明書の提示を求める国へ渡航する人

### A型肝炎

途上国に長期(1か月以上)滞在する人、特に60歳以下

### B型肝炎

血液や体液に接触する可能性のある人

### 破傷風

冒険旅行などでけがをする可能性の高い人

### 狂犬病

イヌやキツネ、コウモリなどの多い地域へ行く人で、特に近くに医療機関がない地域へ行く人。  
動物研究者など、動物と直接接触する人

### ポリオ

流行地域に渡航する人

### 日本脳炎

流行地域に長期滞在する人(主に東南アジアでブタを飼っている農村部)

### 麻しん風しん

海外へ渡航しない人も含めて、すべての人

### 髄膜炎菌

流行地域に渡航する人、定期接種実施国へ留学する人

## 《選択要件》

①年齢、②渡航先、③滞在期間、④準備期間、⑤渡航目的、⑥接種記録、⑥本人と企業の認識・理解度

**A型肝炎**; 食事や水で感染する。北米・西欧・北欧・豪州などの先進国では通常不要。途上国への出張などがある人は推奨する。水道水の飲用が躊躇される地域では必要。先進国では性感染症としての位置づけも。

**B型肝炎**; 長期滞在者には先進国でも必要。血液・体液だけでなく激しいスポーツで汗からも感染する。

**破傷風**; 単独トキソイドは海外では要求されていない。破傷風を含んだワクチン(DPT3種混合、DPT-IPV4種混合、Tdap)の適切な使い分けが必要。日本人は百日咳の免疫が下がっているし、途上国ではジフテリアの流行もあり、3種(4種)混合での追加接種が不可欠。破傷風単独は昭和43年以前の生まれで、途上国へ行く人のみに接種することがある。その世代もTdapでの2回接種を推奨。破傷風は国内で怪我をした時の治療ワクチンである。

**狂犬病**; 哺乳類に咬まれてから発病を防ぐために4-5回接種する。都市部滞在なら不要。郊外での作業、洞窟探検、トンネル工事、動物調査をする研究者以外は事前の接種は不要。希望なら2-3回の暴露前接種を完了して渡航する。WHO推奨の2回で渡航し、咬傷時に2-3回追加が不可欠。海外での咬傷には緊急受診と曝露後接種。

**ポリオ**; インド周辺、中東・アフリカ中央部への渡航には追加する。米国留学には4歳以降の4回目追加が必要。

**日本脳炎**; アジア[東・南・南西]、特に中国・インド・インドシナが常在流行地。基礎免疫があれば1-2回の追加接種、その後は10年ごとに追加する。未接種の成人は1期分3回を済ませる。

**腸チフス・4価髄膜炎・ダニ媒介性脳炎**; 輸入ワクチンであり、渡航地域とその環境で接種を検討する。

**麻疹風疹おたふく水痘の抗体検査**; 近年の国内の麻疹流行はほぼアジアからの輸入であり、先進国でも流行しているため、自分の免疫を確認して不足分を追加して行く。検査しないで追加接種は無駄が多い。初日にDPT接種と同時に検査することを推奨。

**マラリア・高山病対策**; ワクチンはないので、必要に応じて予防薬を処方する。